

スタンバイ

この頃は秋が短くなり
冷たい風が吹いたならもうそこは冬

半袖のシャツを置き去りにして
しまうことも忘れた
クローゼットの中

ここにはもうない緑の日の輝き

知らない間に落ち葉も
全てなくなった

枯れたように見える枝の中
小さな膨らみを見つけ心が落ち着く

心配事一つでもなくなり
胸を撫で下ろすこと増えたらいいね

新しいライフがはじまること信じて
何もなくてもこうして
待ってられる

生きることは待機の繰り返し
今よりいい日が
来ることだけを願って

歌うお兄さん

好きだったのはどこか甘い
ソフトな歌声
クセも少なく語りかける
優しさにあふれていた

若かったのに空の星になって
辛かっただろう笑顔だけ残して

明るい顔で手を振って
心地よい歌声
その姿しか知らないけど
いつも元気をもらった

好きだったのにいなくなって
苦しかっただろう突然の病に

もう一度生まれかわり現れてほしい
その日が来るまで過ごしてゆくから

断崖

断崖下の波打ち際
続く日本海見下ろす
訪れる人もすくない
穏やかで晴れた日なのに

誰もいなかった市振駅から
昔の面影残した町を過ぎて
幼子抱いた伝説の人が
歩いたはずの海岸線が見える

慕う人に会えるためなら
こんなところも歩いて行ける
失うものがあまりに大きいと
通る前にはわからなかったのだろう

人との闘いの名残も
夢のあとの遊歩道で
歴史物語る自然の
奥深さに足も止める

歩くための道ではなくて
通過するだけの国道と高速
新幹線まで通ることなど
昔の人は想像さえなかったろう

今の時代に生きてたならば
悲しい思いしなくて済んだだろう
後ろ髪を引かれそうな
ほのかに光る波枕を見つめる

断崖下の波打ち際
続く日本海見下ろす
訪れる人もすくない
穏やかで晴れた日なのに

人との闘いの名残も
夢のあとの遊歩道で
歴史物語る自然の
奥深さに足も止める

爽秋の候

雨ばかり続くこの頃
久しぶりの青空は
海のような色して
まさに「爽秋の候」だ

街並みを写し出すと
西国の国のような
まるでプロの画像に
驚いてメールする

都会のビルのテラスの緑も
空の眩しさにいつになく輝いて
面倒ばかりの仕事も今日はやめ
どこかの芝生で横になりたい

まさに手紙を書きたくなるよな
昔の人の気持ちもわかる

拝啓 爽秋の候 秋めいてまいりました
みのりの秋 皆様のご活躍を祈ります

季節の変わり目の寒くなるこの頃は
体調を気遣う言葉忘れずに入れましょう

辞書の代わりにネットをググって
筆ペン手にしていきなり書き殴る
指を動かして数秒の文章も
間違えるたびに初めから書き直す

まさに手紙の難しいところ
もらってた人のありがたさわかる

滑走路

白い滑走路の端には
飛ぶ前の飛行機がいる
午後の柔らかな陽をうけて
これからどこにゆくのだろう

最後の別れには無口になって
ふたりで同じ光景を
見てたの思い出す

屋上のベンチには
あの日のような風が吹く
フェンスの隙間にレンズ出し
スナップ撮ってる人もいる

それではの言葉だけで別れたけれど
でも またねとは言えなかった
二度と帰らぬ人

さあ これからだ

ひと冬越した日に
ペット蓋の餌の上で

今朝方羽化した蝶が
綺麗な羽広げる

去年の秋はパセリだけ
這うように食べて大きくなって

それからしばらく動かずに
半年が過ぎたこの日を迎える

さあ これからだ 乾いた羽で
飛び立つ前の姿
シャッターを押した瞬間に
あっという間に空に消えた

ほとんどが地味な毎日
同じこと繰り返す日々に

小さな楽しみを見つけ
少しずつ積み重ねることに

自分でいいと思うこと
やっと見つけて始めたばかり

大きなことでなくていい
できることからやってみようか

さあ これからだ 前だけ見つめて
納得できるまで
いつの日か思い出して
後悔することないように

これからだ 迷うことはない
今日からのことだけを
この手に掴んでゆきたい
振り返ることないように